

「コネクションモール」を中心とした複合施設が創出する中心市街地のにぎわいを市内外に波及し、登米市全体の魅力を高めます

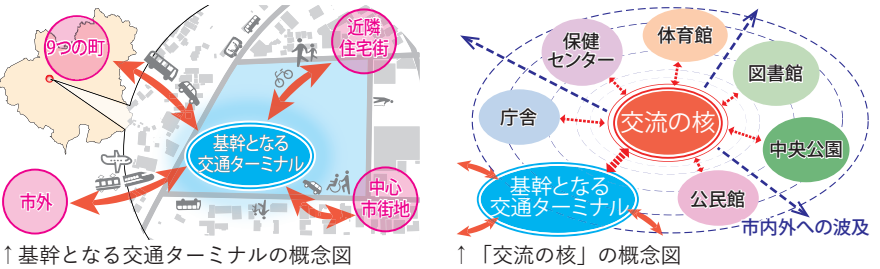
各地域をつなぎ、中心市街地のにぎわいを創出するため、次の事項を重視します。

- ①特色ある9つの町のネットワークを強化することで「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を実現すること
- ②登米市全体の魅力を高めること

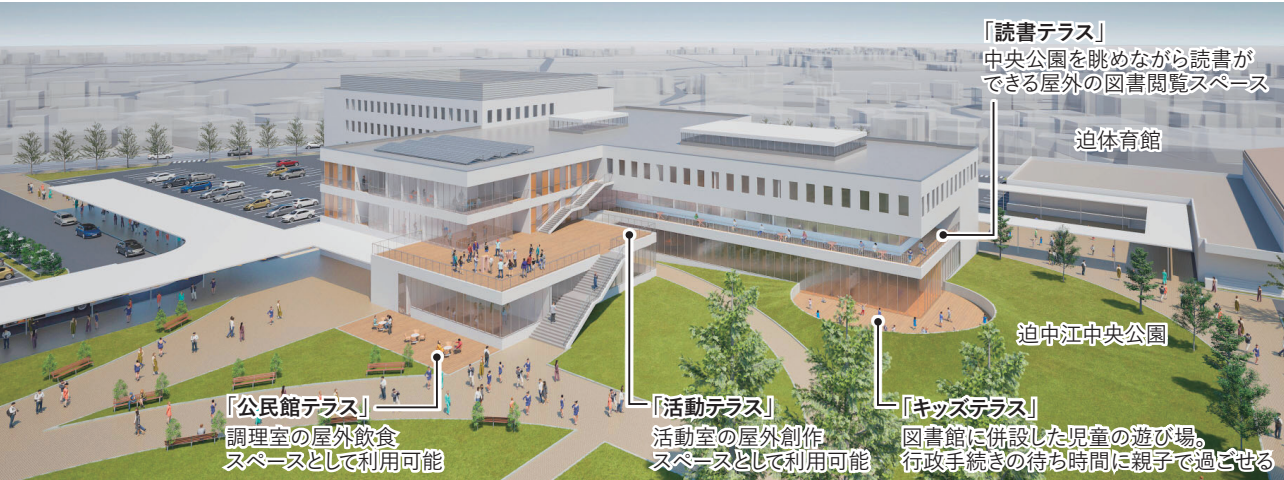
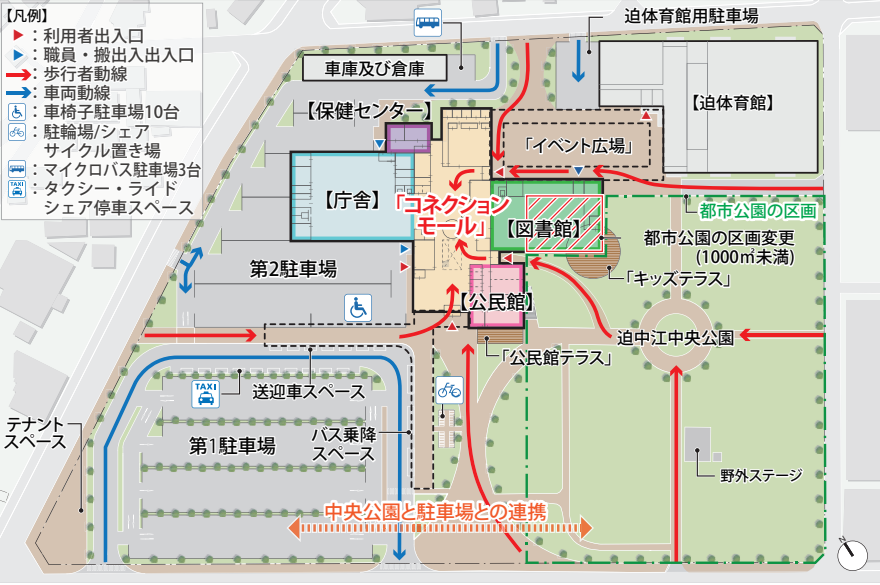
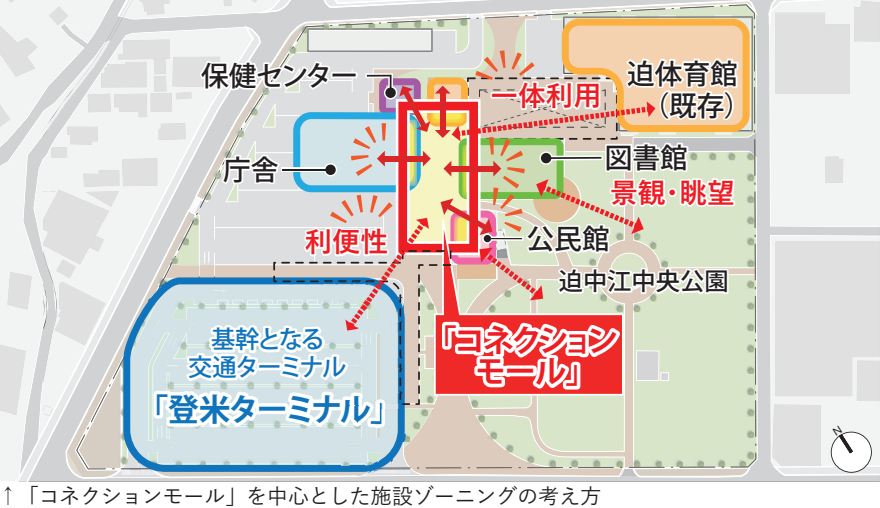
上記を踏まえ、以下の2点を提案します。

1 基幹となる交通ターミナルを整備
9つの町のネットワークを強化するとともに、市内外の来訪者を受け入れるため、複数の交通機関の乗り入れが可能な交通ターミナルを敷地内に整備します。

2 「交流の核」の整備
中心市街地のにぎわいを創出し、市全体に波及効果を生み出す複合施設とするため、単なる機能の集積とするのではなく、それぞれの機能を繋ぎ、相乗効果を生み出す「交流の核」を整備します。



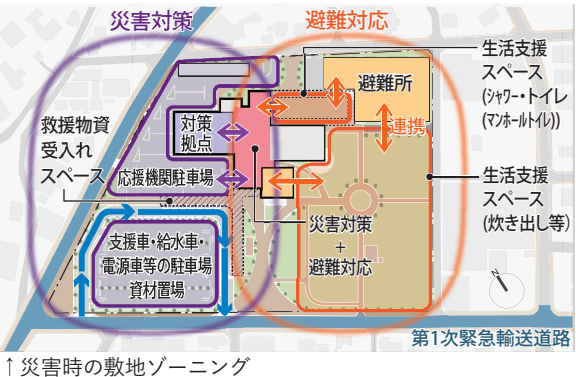
各機能の融合により多様な交流を推進する
「コネクションモール」を中心とした施設ゾーニング
・複合化のメリットを最大限に活かすため、交流の核となり全ての機能を繋ぐ、「コネクションモール」と名付けた共用空間を中心とします。



敷地の西を「災害対策」東を「避難対応」として災害時の役割を分担

・庁舎、駐車場は「災害対策」。公民館、体育館、中央公園は地域市民の「避難対応」とし、コネクションモールを中心に敷地の東西で災害対策の役割を明確に分けることで、円滑な災害対策が実行できるようにします。

・コネクションモールは「災害対策」「避難対応」で相互利用する計画とします。



浸水シミュレーションを踏まえた減災の視点での合理的浸水対策

- ・日常的な施設へのアクセスのしやすさと、かさ上げによる安全性を両立する計画とします。浸水シミュレーションを行った結果、計画建物周辺の浸水深さは1.25m（敷地内最大浸水深さは1.33m）となるため、かさ上げ高さと腰壁の高さの合計で1.25mを超える計画とします。
- ①約40cmの地盤のかさ上げ：建物周囲の地盤面を中央公園と合わせ、利用者の負担にならないよう約40cmかさ上げします。
- ②建物外周はRC腰壁0.9m立上げ
- ③出入口に浮力式止水板の設置：計画地は氾濫開始後約10分で浸水1mに達するため、自動で起伏する「浮力式」の止水板を出入口に設置します。

かさ上げ+止水板案	
建物イメージ	RC腰壁+止水板
	マウンドアップ

↑ 浸水対策のイメージ